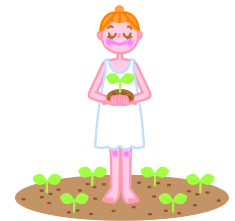


Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～

今年度のテーマは「話を聞く」です



2022年3月

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

聞くことの効き目

能代市社会教育指導員 工藤 克弥

今年度の「Only one」では、子どもの話を聞く際のポイントについて考えてきました。最後に、話を聞くことの価値について振り返ってみましょう。

さて、40年近い教員生活では多くの子どもたちに出会い、ありがたいことにたくさん子どもたちと楽しい時間を過ごすことができました。

また、子どもたちが抱える悩みや迷いについて相談を受けたり、熱い思いを共有したり、必要に応じて個別に話し合ったりしたことも少なくありません。子どもを励まそうと、しどろもどろになったり、途中で訳がわからなくなって、かえって子どもを混乱させてしまったりなど、自分の心がいなさに落ち込んでばかりでした。

今、それらのことを思い起こしてみれば、子どもたちに対していちばん効果的だったのは、何よりも、まず「子どもの話をじっくり聞く」ことだったと思います。確かに、話題によっては、何かよいアドバイスを与えた方がよいのではないかなと思われるケースもありました。でも、子どもが求めていたのは、私からの助言などではなく、「自分の話を聞いてほしい」ということでした。このことに気がつくまでには多くの時間を要しましたが、子どもにとって「話を聞いてもらう」ことは、大人が思う以上に価値のあることなのは間違いありません。解決に向けては、大人が具体策を示すのではなく、「どうすればよいか、いっしょに考えよう」という距離の取り方がよいのではないのでしょうか。

実は、子どもたちは、自分の思いや考えを聞いてもらっているうちに、少しずつ、自分の力で解決への糸口を見いだすことがあります。こちらは、うなずいたり相づちを打ったりしながら、話をじっくり聞いているだけなのですが…。

「聞き上手」という言葉があります。

なぜか、その人と話をしていると、ついつい話が弾み、あれこれしゃべりたくなる。それでいて、話し終わった後は、とてもすっきりした気分になる。そんな気にさせてくれる人でしょうか。あなたの周りにもそんな人がいませんか。

最後に、ある先輩から聞いた話を一つ。

この先輩は、高校生の娘さんを、3年間、毎朝、車で学校に送っていたそうです。父親にとって、この朝のひとときは、娘と話ができる（ときもある）貴重な時間です。おそらくは、様々なことが話題に上ったことでしょう。もちろん、沈黙の間の時間もあつたに違いありません。

そして、娘さんの最後の登校となったその日、学校に着いて車から降りかけた娘さんがひと言…

「お父さん。今日まで、たくさん話を聞いてくれてありがとう」

